

【ガイダンス日程表】(全て zoom 参加可能)

※各終了時刻は、最長の場合です。(それより早く終わる場合もございます。)

- 3/17 (木)「ギリシア・ローマの歴史を読む」18:40~20:00
- 3/17 (木)「ロシア語入門」「ロシア語講読」20:10~21:30
- 3/17 (木)「身体とところ」20:10~21:30
- 3/19 (土)「ギリシャ語初級(文法中心)」15:30~16:50
- 3/19 (土)「フランス語入門A・B」「フランス語講読C」18:40~20:00
- 3/19 (土)「現代社会を考える(フォーコー)」「経済」20:10~21:30
- 3/20 (日)「フランス語講読A・B」10:30~11:50
- 3/21 (月)「現代ギリシア語」20:10~21:30
- 3/21 (月)「西洋近代思想の古典を読む」20:10~21:30
- 3/22 (火)「イタリア語講読」18:40~20:00
- 3/22 (火)「ギリシャ語初級文法/初級講読A」20:10~21:30
- 3/23 (水)「韓国語初級」18:40~20:00
- 3/23 (水)「漢文入門」「東洋古典を読む」「漢文講読I・II」20:10~21:30
- 3/24 (木)「ギリシャ語初級講読B」20:10~21:30
- 3/24 (木)「教養英語」20:10~21:30
- 3/25 (金)「現代世界史」18:40~20:00
- 3/25 (金)「英語で学ぶ歴史と文化」「ドイツ語初級/講読」20:10~21:30
- 3/25 (金)「日本文化論を読む」21:00~22:20

録画視聴 3/17~3/25 「英語講読A(ディケンズ)」

録画視聴 3/17~3/25 「英語講読B(ロミオとジュリエット)」

録画視聴 3/17~3/25 「シェイクスピアのソネット」

【お申し込み方法】

1)「参加希望ガイダンス」「お名前」「ご連絡先(電話番号・E-mailアドレス)」「対面参加/オンライン参加、のご希望」を添えて、下記よりお申し込み下さい。

- ・ホームページ「お問い合わせ」
- ・電話：075-781-3215
(土日祝を除く 13:30~21:30。
留守録での受け付けも可能です。)
- ・FAX：075-781-6073



2) 参加されたあとは、正規受講を希望されるか否かを、いずれの場合も3日以内にお聞かせ下さいませようお願い申し上げます。

(申し込みます、検討中です、見送ります、など)



● 2022 年度 4 月から開講のクラス **春のお山で、**
さあ、一緒に!

無料ガイダンス (クラス説明会)

3/17~3/25

大人が楽しむ、語学とゼミ。



disce libens = たのしく学べ! (ラテン語)

クラスに興味をお持ちの方は、みなさんお問い合わせの上、是非お気軽にご参加下さい。講師がクラス概要について説明したあと、参加者との質疑応答を致します。いずれもオンライン(zoom)でのご参加が可能です。(お申し込み方法は裏表紙を御覧ください。)

詳しくは中面をご覧ください。

語学

学べるのはここだけ!

- ・西洋古典語
- 「ギリシャ語」「ラテン語」
- ・現代語
- 「ロシア語」「フランス語」
- 「現代ギリシア語」「イタリア語」
- 「韓国語初級」「ドイツ語」
- 「教養英語」「英語で学ぶ
(Christian Theology) 歴史と文化」
- 「英語講読」

ディケンズ『ボズのスケッチ』

シェイクスピア『ロミオとジュリエット』

ゼミ

- 「シェイクスピアのソネット」
- 「ギリシア・ローマの歴史を読む」
- 「身体とところ」(野口晴哉)
- 「現代社会を考える」(フォーコー)
- 「経済」(ベーシックインカム)
- 「西洋近代思想の古典を読む」(ルソー)
- 「漢文」「東洋古典を読む」
- 「現代世界史」
- 「日本文化論を読む」

「ギリシャ語初級（文法中心）」無料ガイダンス

3/19 (土)

15:30 ~ 16:50

NEW!
zoom
オンライン対応

『ギリシャ語初級 (文法中心)』

4/16より開講
対面+オンライン

10名 お早めに!

土曜 15:30 ~ 16:50 講師: 広川直幸

テキスト: 『古典ギリシア語初歩』(岩波書店)

1年間を目安に、テキストを一通り学びます。
初めて習う方や、昔習った方の学び直しに。



「ギリシャ語初級文法」無料ガイダンス

3/24 (木)

20:10 ~ 21:30

2020年06月
より開講中。
zoom
オンラインのみ

『ギリシャ語初級講読 B』

4/21より開講

オンライン
10名 (空きあり)

2022年2月時点
お早めに!

木曜 20:10 ~ 21:30 講師: 竹下哲文

テキスト: A.E. Hillard & C.G. Botting, *Elementary Greek Translation*, Bristol Classical Press 1982

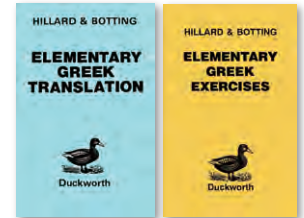
サブテキスト: A.E. Hillard, C.G. Botting, *Elementary Greek Exercises*, Duckworth

古代ギリシャの歴史を題材にして、ペロポネソス戦争でのアテーナイの敗北にいたるまでの様々な出来事を綴った文章が1ページごとに続いていく形式になっているテキストを用いて学んでいます。また、「英語→ギリシャ語への翻訳」を通して作文の練習と文法の復習ができ、上記と並行して進められるよう設計されたサブテキストにも取り組んでいます。

1月末時点の進捗状況

講読: 教科書 p. 53 (全55課中第39課) 作文: 教科書 p. 14 (全165課中第19課)

毎回の配分としては、主には講読を行って、後半の20分くらいを作文に充てていますが、回によっては文法の復習を兼ねた解説に用いることもあります。



「ギリシャ語初級文法」無料ガイダンス

3/22 (火)

20:10 ~ 21:30

NEW!
zoom
オンライン対応

『ギリシャ語初級文法』

4/19より開講
対面+オンライン

10名

お早めに!

火曜 20:10 ~ 21:30 講師: 山下大吾

テキスト: 『ギリシア語入門 新装版』(岩波書店)

1年間を目安に、テキストを一通り学びます。初めて習う方や、昔習った方の学び直しに。



zoom
オンライン対応

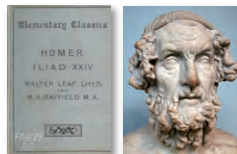
『ギリシャ語初級講読 A』

4/16より開講
対面+オンライン
10名 (空きあり)
2022年2月時点
お早めに!

土曜 10:30 ~ 11:50 講師: 山下大吾

テキスト: ホメーロス 『イーリアス』 XXIV

2021年11月より、『イーリアス』24歌の講読をしています。
一回の授業で10行ほどのペースで進みます(目安)



NEW!
zoom
オンライン対応

『ラテン語初級 (文法中心)』

対面+オンライン

10名

お早めに!

(月曜 18:40 ~ 20:00 で開講予定) 講師: 広川直幸

ラテン語を学び初めた方や、昔習ったが基本を学び直したいという方向向けのクラスです。

こちらはガイダンス実施未定、開講調整中です。
お問い合わせ下さい。
(詳細が決まり次第、HPにて告知致します。)

上記の他にも、セネカやキケロー、ホメーロスなどの西洋古典をじっくり味わうことのできるクラスが多数ございます。詳しくはホームページを御覧ください。



オンラインで、ラテン語講習会も実施しています。

🔍 ラテン語講習会 🔍 検索

「ロシア語入門」「ロシア語講読」無料ガイダンス

3/17 (木)

20:10 ~ 21:30

4/21 より開講

対面+オンライン

10名

お早めに!

NEW! 『ロシア語 入門』

zoom
オンライン対応

木曜 午前予定 (時間応相談) 講師: 山下 大吾

テキスト: 『名作に学ぶロシア語』 (井桁貞義著/ナウカ出版)

ナウカ出版の 井桁貞義著『名作に学ぶロシア語』を教材に用いてロシア語の初歩を学習します。

(※ただしこちらは絶版のため、受講生と相談してテキストを決めます。)

プーシキンやチェーホフを始めとする 19 世紀の古典作家のみならず、ブルガーコフなどソビエト時代に執筆活動を行った作家の原典を味わいながら、少しずつ無理なく文法が習得できます。奥深く幅広いロシア語ロシア文学の世界。静かなお山の離れの間で、その豊かなひと時をご一緒にできれば幸いです。



zoom 『ロシア語 講読』

オンライン対応

4/21 より開講

対面+オンライン

10名

お早めに!

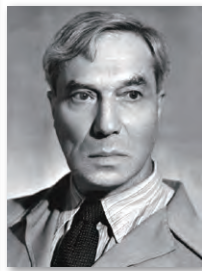
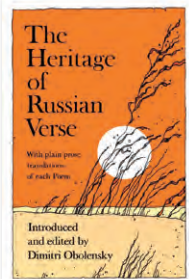
木曜 14:30~15:50 講師: 山下 大吾

(空きあり)

● 担当講師クラス便り (2022 年 2 月) より

当クラスで現在、ロシア詩の講読に取り組んでおります。受講生はこのクラス開講以来継続して受講されている T さんに加え、しばらく休会されていた N さんが春学期から復帰されお二方となり、読後の感想や質問などの飛び交う以前の活気あふれる雰囲気が戻って参りました。文法的読解のみならず、ヤンプやアナベストといった韻律や男性韻、女性韻の脚韻など、詩ならではの特性にも十分気を配りながら講読を続けております。

2021 年 1 月から取り組み始めた Julia Titus 編集のロシア詩読本は 9 月までに読了し、現在は N さんのリクエストで、小説『ドクトル・ジヴァゴ』の作者としても知られるパステルナークの詩を読み進めています。底本は Dimitri Obolensky 編集のロシア詩選集とし、この先ヴァチエスラフ・イワノフやマンデリシュタムなど、上掲 Titus 編の読本に未収録の、主に 20 世紀の詩人を取り出して講読の予定です。また T さんのリクエストで、息子アンドレイが『惑星ソラリス』などの映画監督として知られる、アルセーニイ・タルコフスキイの作品にも取り組む予定になっております。文法を一通り学習された方でしたら参加可能ですので、ロシア詩のみならずロシア語・ロシア文学に興味を抱かれる方々のご参加をお待ち申し上げます。(2021 年度クラス便りより)



2022 年 2 月時点

「フランス語入門 A・B」「フランス語講読 C」無料ガイダンス

3/19 (土)

18:40 ~ 20:00

対面+オンライン

10名

(空きあり)

2022 年 2 月時点

お早めに!

zoom
オンライン対応

『フランス語入門 A・B』

A クラス 月曜 15:40~17:00

4/18 より開講 講師: 谷田 利文

NEW!

B クラス 金曜 18:40~20:00

4/15 より開講 講師: 谷田 利文

【A クラス】練習問題を多く解いて、記憶の定着を図りたいという要望から、文法事項を確認してから練習問題を解くことをメインにしています。【B クラス】フランス語を初めて習う方へ向け、新規開講となります!

知らない言語は、意味のない記号にしか見えません。この講座では、フランス語の基本的な文法や表現を学ぶことで、そのような段階を突破し、辞書を使えば、時間はかかってもフランスが読めるという段階を目指します。フランス語に興味はあるけれど、一人ではなかなか始められない方など、関心がある方はお気軽にお問い合わせください。少人数制で個人の学習段階に沿った内容で丁寧にサポートいたします。

4/16 より開講

対面+オンライン

10名

(空きあり) お早めに!

2022 年 2 月時点

zoom
オンライン対応

『フランス語講読 C』

土曜 19:00~20:20 講師: 谷田 利文

テキスト: 『星の王子さま
Le petit prince』



2021 年 12 月から講読中。子供向けと思われるのですが、序文から関係代名詞、複合過去、半過去、最上級などが出てくるので、文法の復習にはちょうどいいテキストだと改めて感じています。文法事項を確認しながらゆっくり読み進めています。

「フランス語入門 A・B」「フランス語講読 C」無料ガイダンス

3/20 (日)

10:30 ~ 11:50

4/17 より開講

対面+オンライン

10名

(空きあり)

2022 年 2 月時点

お早めに!

zoom
オンライン対応

『フランス語講読 A・B』

A クラス 日曜 13:00~14:20

講師: 渡辺 洋平

NEW!

B クラス 日曜 10:30~11:50

講師: 渡辺 洋平

【A クラス】テキスト: Jean-Paul Sartre, *L'existentialisme est un humanisme*, Gallimard, 1996(1946) (ジャン＝ポール・サルトル 『実存主義とはヒューマニズム』)

【B クラス】まずはお気軽にお問い合わせいただければと思います。個人的には少し古めの文学作品(ユゴー、スタンダール、ゾラなど)か、あるいはルソーなどを読んでみようかという気持ちもありますが、もし何か読んでみたいテキストがあれば、そちらで開講するというのも可能かと思えます。



「現代ギリシア語初級文法1・2」無料ガイダンス

3/21 (月)
20:10 ~ 21:30

オンライン
10名 (空きあり)
2022年2月時点
お早めに!

zoom オンライン対応 『現代ギリシア語初級文法1・2』

4/20より開講 **NEW!** 【1クラス】(文語) 水曜日 19:30 ~ 20:50 講師: 福田耕佑
(2022年2月9日に開講しました!)

4/18より開講 【2クラス】(口語) 月曜日 19:30 ~ 20:50 講師: 福田耕佑
(2021年4月より開講中)

「口語ギリシア語(デモティキ)」

今でもギリシア人たちによって話されている現代ギリシア語の口語を学びます。
講義の中で扱うテキストや進め方は基本的に受講者の皆さまと相談しながら決めていきたいと思います。こちらからの案として、

《文法・会話》 Δ. Δημήτρα, και Μ. Παπαχειμώνα, Ελληνικά Τώρα, Νόστο ς, Αθήνα, 1987
(D. デミトラとM. パパヒモナス 著『今日のギリシャ語』)

《講読》 ヨルゴス・セフェリス著『ギムノベディア』より「俳句十六帖」

ニコス・カザンザキス著『日本旅行記』より「京都」「日本の庭」「茶の湯」など。

「文語ギリシア語(カサレヴサ)」

今日でも法律や学術論文、また格式高い文章に用いられる現代ギリシア語の文語を学びます。旅行や日常生活の中ではもちろん使われませんが、新聞や一般書籍を読みこなしていく上では避けて通ることができません。もちろん文語による優れた(現代!)ギリシア古典作品も多く残されています。感覚としては、文法は古典ギリシア語、統語論は現代ギリシア語といったハイブリッドです! 古典ギリシア語か現代ギリシア語のどちらかを既に学んでいることが望ましいです。

講義の中で扱うテキストや進め方は基本的に受講者の皆さまと相談しながら決めていきたいと思います。

《文法》 Γραμματική της Νέας Ελληνικής Γλώσσας(της απλής καθαρεύουσας) 第二版

《講読》 Δογματική της ορθοδόξου Ανατολικής εκκλησίας



アテネ大学神学部教授として組織神学や倫理学を講義したフリストス・アンドゥルツォス(1869-1935)が著した『東方正教会の教理』(1907)を読解します。

「韓国語初級」無料ガイダンス

3/23 (水)
18:40 ~ 20:00

4/20より開講
対面+オンライン
10名 (空きあり)
2022年2月時点
お早めに!

NEW! zoom オンライン対応 『韓国語初級』

水曜 18:40~20:00 講師: 高周煥(コジュファン)

テキスト: 『文法がしっかりわかる韓国語』(池田書店)ほか

このクラスでは、韓国語学習の経験のない方や独学していた方を対象に韓国語を体系づけることを目的としております。文字や基本的な文法はもちろん、慣用的な表現や、挨拶・日常会話についても耳からたくさん取り入れて頂けるよう、受講生の皆さんと声を交わし、韓国語と日本語の類似点と相違点を一緒に考えながら、楽しく学習し続けることを目標としております。

このクラスは2021年度に新規開講し上記の教科書を一周していますが、22年度4月以降も同教科書を最初からじっくりおさらいしながら、基本の定着を図っていく予定です(講師による解説資料も随所で用います)。初めての方も無理なくご参加いただけますので(その意味で「新規開講」クラスに位置づけております)、是非ご参加下さい。



「教養英語」無料ガイダンス

3/24 (木)
20:10 ~ 21:30

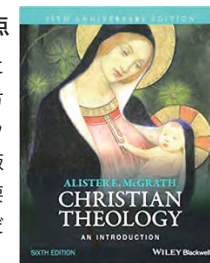
4/21より開講
対面+オンライン
10名 (空きあり)
2022年2月時点
お早めに!

zoom オンライン対応 『教養英語』

火曜 20:10 ~ 21:30 講師: 塩川礼佳

テキスト: Alister McGrath, *Christian Theology*

知的な読みものに英語で親しみたい方を歓迎します。テキストは、左記第6版から適宜選び、重要主題に触れていただく予定です。



邦訳が存在する文献ですが、訳出されている版が古いため、原語で挑戦する値打ちはなお十分だと思えます。実際、受講生の方から「英語の文章を読む習慣が身についた」「今までキリスト教についてちゃんと勉強したことがなかったので面白い」と嬉しい言葉をいただいております。やさしい英語で、キリスト教の教養を身に付けられることが本講座のウリです。

さて、本講座では、春学期に、神の創造について、秋学期には、被造物としての人間について勉強しました。冬学期は、人間の救済について扱います。小難しい表題にウツと思われた方もいるかもしれませんが、ご安心を。マクグラスにかかれば楽しく学べるのだから不思議なものです。流麗な英文と明晰な解説。キリスト教についてあまり勉強したことがない人にこそ、この面白さを体験していただきたいところです。また、文法や単語の説明に時間を割く基礎的な講座ですから、英語を学び直したい方や意欲的な高校生の方にも最適ですよ。どうぞ気軽に仲間に加わってください。(以上、2021年度クラス便りより抜粋)

「イタリア語講読」無料ガイダンス

3/22 (火)
18:40 ~ 20:00

4/19より開講
対面+オンライン
10名 (空きあり)
2022年2月時点
お早めに!

zoom オンライン対応 『イタリア語講読』

NEW! テキスト: Matteo Marangoni, *Saper vedere* 火曜 18:40~20:00 講師: 柱本 元彦

4月からはマッテオ・マランゴニ(Matteo Marangoni)の美術論、「Saper vedere」を読み始めます。1930年代に書かれたもので、イタリア美術論の基本文献の一冊として位置づけられています。時代的・思想的にパウル・クレアの『造形思考』に近いものですが、著名なイタリア美術を用いてその「見方」を論じ、イタリアのフォルマリズム論としてはロベルト・ロンギと双壁をなしています。

イタリア語としてイタリアの美術論は一般的に難しく、マランゴニの文章もそれほど簡単ではありません。とはいえ啓蒙書ですから難しすぎることもないレベルです。

最近このクラスでは音楽に関わる文章を扱う機会が多かったのですが、イタリアは美術の国でもあり、今回のテキストを選択しました。全てを読むことを目標とせず、まずはしばらく読んでみてから、同じものを読み続けるかどうかを考えていきます。

興味をお持ちの方はお問い合わせ下さい。(テキストはこちらでご用意いたします。)

「英語で学ぶ歴史と文化」「ドイツ語初級・講読」無料ガイダンス

3/25 (金)

20:10 ~ 21:30

※この日は、「英語で学ぶ歴史と文化」と「ドイツ語(初級および講読)」の2種類(3クラス)のガイダンス枠となります。当日参加者の希望により、時間枠内での説明内容や、順序・時間配分が変わってきます点、何卒ご了承下さい。

4/16 より開講
オンライン

10名

お早めに!

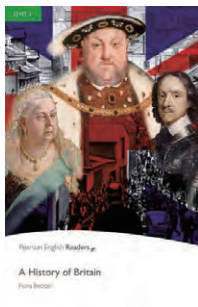
(英語の基本ができており、やる気のある高校生も参加可能)

NEW! 『英語で学ぶ歴史と文化』

zoom
オンラインのみ

土曜 18:40 ~ 20:00 (予定) 講師: 吉川 弘晃

テキスト: *A History of Britain* (Penguin Readers)



本授業は、生徒さんが各段落を音読して日本語に直し、それに講師が解説を加えるという古典的な「講読」の方式を取っております。しかし、文法的な解説だけでなく、歴史的背景の解説を数多く行うのがこの授業の特徴であります。現在用いているテキストは、英語圏の小学生向けであるため、極めて平易な英文で書かれる反面、歴史叙述としてはあまりに単純かつ省略が多すぎるため、日本で生まれ育った人間にとっては分かりにくい箇所も少なくありません。そのため、英国史の理解に必要なキリスト教やヨーロッパの国際関係史(特にフランスとの関係)の基本的な事柄を確認するようにしています。

しかしながら見方を変えれば、以上の教科書の欠点があるからこそ、生徒さんはただ漫然と英語を訳すのではなく、どこが自分にとって理解できる(できない)かを意識しながら英文に向き合うという自発的な姿勢を取ることに繋がるとも言えましょう。生徒さんは英文読解を通じて、世界史に関する問いを自ら提示して、それに対して講師は、「Zoom」(オンライン会議アプリ)の画面共有機能を使って、資料や図像を提示しながら解説していきます。(以上、2021年度クラス便りから抜粋)

zoom
オンラインのみ 『ドイツ語 初級』

月曜 17:10 ~ 18:20 (予定) 講師: 吉川 弘晃

テキスト: 『読むためのドイツ語文法』(郁文堂、2013年)

2021年度は上記教科書で一通り学び、冬学期後半からはやさしい現代ドイツ語で書かれたグリム童話を読み始めました。

4/18 より開講
オンライン

10名

お早めに!



zoom
オンラインのみ 『ドイツ語 講読』

月曜 20:10 ~ 21:30 (予定) 講師: 吉川 弘晃

講読クラスでは、ドイツ語で書かれた様々な文章を読みながら、中級文法や語彙を学ぶと共に、ドイツ語圏文化の豊かさに触れていきます。既に初級文法を一通り学び終えた人を対象としますが、テキストは受講生のレベルに合わせて決めますし、文法の穴はその都度ゆっくり確認していくので、心配はご無用です。授業形式は、基本的には音読・訳読・講師のコメントの三つを繰り返しながら進んでいきますが、希望があれば語彙力のトレーニングなども行います。

「英語講読 A ディケンズ」無料ガイダンス (動画)

録画視聴 期間: 3/17 (木) ~ 25 (金)

ガイダンス希望者へ、担当講師によるクラス説明動画の URL を限定公開致します。

zoom
オンライン対応

『英語講読 A

4/19 より開講

対面+オンライン

10名

(空きあり) お早めに!
2022年2月時点

ディケンズ 『ボズのスケッチ』を読む』

テキスト: Charles Dickens, *Sketches by Boz* 火曜 20:10 ~ 21:30 講師: 坂本晃平

イギリスの国民作家と言われるチャールズ・ディケンズは、まだ駆け出しの記者だったころ、ひんぱんに新聞に作品を投稿していました。それらをまとめて出版した作品集である『ボズのスケッチ』が、彼の処女作と言われています。本クラスは、こちらの作品集を読んでいくことを目的としています。ひとつの作品はどれも5ページ前後の長さですが、どれもユーモアと皮肉とがたっぷり効いていて若いディケンズの作家としての意気込みを感じさせます。そのぶん読み解くのも容易ならざることも多いですが、わかればわかるほど面白くなっていく作品と言えるでしょう。

(ディケンズの英語自体それなりに難しいので、高校英文法の水準はしっかりと理解していることが望ましいです。従って、ある程度の難しさの英語の小説を自分ひとりで読めるようになることがこのクラスの到達目標でもあります。)



「英語講読 B ロミオとジュリエット」無料ガイダンス (動画)

録画視聴 期間: 3/17 (木) ~ 25 (金)

ガイダンス希望者へ、担当講師によるクラス説明動画の URL を限定公開致します。

zoom
オンライン対応

英語講読 B クラス ウィリアム・シェイクスピア

NEW! 『ロミオとジュリエット』

zoom
オンライン対応

テキスト: Rene Weis (ed.), *Romeo and Juliet*

対面+オンライン

4/15 より開講

10名

お早めに! 金曜 20:10 ~ 21:30 講師: 坂本晃平



まずもって『ロミジュリ』の悲恋はルネサンスに書かれて今なおその恋の魔力を失っていない普遍性を持った作品なのです。ロマンチックラブ+悲劇=正義というわけです。また文体面でも恋愛詩(特にソネット)の伝統を強く意識してとても煌びやか。韻文ではなく散文で書かれたところもとてもコミカル。とはいえいかんせん下品にすぎる部分もあるのが玉に瑕と感じられる向きもあるかもしれませんが・・・。なにせよ、死ぬまでに読むべき英語の作品 No.1 といっても過言ではありません。ぜひぜひお越しください。(2021年度クラス便りより抜粋)

「英語で味わうシェイクスピアのソネット」無料ガイダンス（動画）

録画視聴 期間： **3/17** (木) ~ **25** (金)

対面+オンライン



オンライン対応

『英語で味わう
シェイクスピアのソネット』4/19 より開講 **10名** (空きあり)

(空きあり)

2022年2月時点

お早めに！

火曜 18:40~20:00 講師：坂本晃平

こちらは
講義形式の
クラスです。

みんなが知ってる『ハムレット』から、宝塚の『ウェスト・サイド・ストーリー』、あるいは黒沢の『蜘蛛巣城』から、はたまた漫画『薔薇王の葬列』やアニメ『絶園のテンペスト』にいたるまで、いろんなところで馴染みはあるけど自分じゃなかなか読めなくて……。そんな文人シェイクスピアが書いた詩の作品集にチャレンジしてみませんか？

テキストには、大場健治訳『ソネット詩集』（研究社）を使います。対訳形式でとても丁寧な注釈がついているので、一冊もって山に登れば鬼に金棒、怖いものはありません。一篇のソネットは150字にも満たないほどの短い詩ですが、それぞれに豊かな世界が広がっています。詩が好きな方はもちろん、古くて格調高い英語を読んでみたい方も、みんなでイギリス=ルネサンスの世界に出かけてみませんか？

受講検討されたい方へ、
担当講師によるクラス
説明動画の URL を限
定公開致します。

「ギリシア・ローマの歴史を読む」無料ガイダンス

3/17 (木)

4月から新しい章を読みます！

対面+オンライン

18:40~20:00

4/21 より開講 **10名** (空きあり)

(空きあり)

2022年2月時点

お早めに！



オンライン対応

『ギリシア・ローマの歴史
を読む』

テキスト：M. Finley (1986),

The Use and Abuse of History (2nd ed.), London

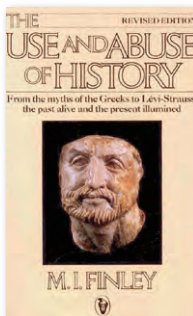
(なるべく第2版をご用意ください)

木曜 18:40~20:00 講師：大野 普希

斬新な発想と緻密な分析によってギリシア・ローマ史研究に大きな足跡を残した希代の古代史家モーゼス・フィンリー、その円熟期の論考12編を集めた *The Use and Abuse of History* から、いくつかの章を選んで読み進めていきます。2021年度は最初に“The Ancient Greeks and Their Nation”を取り上げ、冬学期に読しました。10頁ほどの小論ながら、私たちが当たり前のように「古代ギリシア人」と呼ぶ人々にとって「ギリシア(人)」とは何であったのかという根本的な問いを投げかける刺激的な論考です。

本書に収められた12篇は全て独立しているので、上記以後は、特に読む順番は決まっています。ギリシア・ローマ史の個別テーマを論じたものから、歴史学の方法論を扱ったものまで、多種多様なラインナップの中から、受講生の方が興味を持った章を順次読破していきます。適宜文法事項も確認しながら一文ずつ丁寧に読み進めるので、ゆっくりじっくり英語を読みたい方におすすめです。

随時ご参加をお待ちしております！



「身体とこころ」無料ガイダンス

3/17 (木)

20:10~21:30

オンライン

4月より開講

定員 **10名**

NEW!



オンラインのみ

「身体とこころ
野口晴哉『風邪の効用』
を読む」

お早めに！

オンライン限定授業 曜日・時間未定 講師：中村 安里

皆さん、風邪をひいたことがあるかと思います。その際にどのように対応しましたか？病院に行かれていたかたもいらっしやれば、自力で治したかたもいらっしやるかと思います。

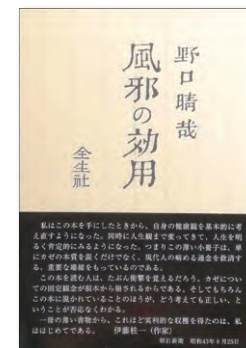
では私たちはなぜ風邪にかかるのでしょうか？寝不足だったからとか、不規則な生活をしてたからとか、身体を冷やしていたからとか、誰かからうつったとかいろいろ声が聞こえてきそうですが、野口自身風邪について以下のことを述べています。

「或る一部分が偏り疲労の潜在状態になって、そういう部分の弾力性が欠けてくると風邪を引き、風邪を引いた後、快復してくる。それで私は、風邪は病気というよりも、風邪自体が治療行為ではなからうかと考えている。ただ風邪を完全に経過しないで治してしまうことばかり考えるから、普段の体の弱い処をそのまま残して又次へ行き、又風邪を引く」。

野口はこのように風邪を身体の全体性と有機的な連関の中にとらえていきます。風邪をしっかりと経過することができれば、それは身体にとっては快復するチャンスだと捉えることが可能なのです。この書籍を通じて、身体で生じる様々な現象に対して裡から気づき、裡から活き活きとした力を産み出してやまない、真に健康な生き方のありようについて、みなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

<副読本>

『風声明語』は、野口晴哉が書いた詩のようなエッセイでとても読みやすく彼の人柄を感じることができるので、サブ教科書として随時参照したいと思います。



「現代社会を考える」経済 無料ガイダンス

3/19 (土)

20:10 ~ 21:30



『現代社会を考える』

テキスト: ミシェル・フーコー

(フーコー)

『安全・領土・人口』 水曜 20:10~21:30 講師: 谷田利文

※この日は、下記 2 クラスのガイダンス枠となります。当日参加者の希望により、時間枠内の説明内容や、順序・時間配分が変わってきまします点、何卒ご了承下さい。

対面+オンライン

4/20 より開講 **10名** (空きあり)
2022年2月時点
お早めに!



昨年春学期に『監獄の誕生』を読み終え、次にコレージュ・ド・フランスの講義録である『安全・領土・人口』を講読しています。『監獄の誕生』では、規律訓練型の権力が分析されましたが、『安全・領土・人口』では、規律システムから、自由を前提とした安全システムへの変化が論じられます。それは、人々の生活の細部に介入し規律化しようとするのではなく、一歩引いて人々を自由に行動させながら、人口などの統計データ上で問題が生じれば介入するという、より効率的な統治のシステムであり、現代社会を分析する手掛かりとなると考えます。

また担当者は、フーコーが言及する 18 世紀フランスの政治経済学や、ポリス思想を専門としており、それらについての補足説明や、フランス語原文への参照により、理解を深められればと思っています。関心がある方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

NEW!



『経済』

対面+オンライン

4/15 より開講 **10名** お早めに!

ベーシックインカムを考える

テキスト: ガイ・スタンディング『ベーシックインカムへの道』

金曜 20:10~21:30 講師: 谷田利文



AI 化により、生きるために最低限必要なお金は国が支給する「非労働社会」が到来するという見解があります。この見解への賛否はひとまず置いておくとしても、近い将来、労働のあり方や勤労意識について問い直さざるをえない事態を迎えるのではないかと考えています。また、コロナによって、日本でも国民全員への 10 万円支給が実現し、スペインが導入を決定するなど、ベーシックインカムへの関心の高まりを感じています。このクラスでは、ベーシックインカムについての基本書を読み、その理解を深め、その是非や、日本における実現の可能性について、みなさんと議論できればと思っています。関心がある方は、お気軽にお問い合わせください。

「西洋近代思想の古典を読む」無料ガイダンス

3/21 (月)

20:10 ~ 21:30



対面+オンライン

4/18 より開講 **10名** (空きあり) お早めに!
2022年2月時点

『西洋近代思想の古典を読む』

テキスト: ルソー『社会契約論』
(白水 U ブックス)

月曜 20:10~21:30 講師: 谷田利文



春学期は、ホッブズの『リヴァイヤサン』を読みました。自然状態や社会契約が論じられる国家論だけでなく、今回は第一巻の人間論も含めて読みました。第一巻は、難解な部分も多いので心配でしたが、ホッブズの人間の本性に対する冷静な分析や、幾何学をモデルとした記述に対して、面白いという感想を聞くことができました。逆に国家論においては、主権者への反抗を許さない記述に対して、共感できないという声も出ましたが、「一人の君主、政治家の独裁というイメージより、システムとして社会契約を考えてはどうか」という意見が出ました。つまり、宗教戦や内乱が続く中、それを解決するため、暴力を管理するリヴァイヤサンという人工的人間(システム)を作ったという考え方です。それでもやはり、自分の人格ごと国家と一体化することは、国家=自分を守るために、個人の自由や生命が損なわれる可能性もあり、近代国家の危うさもホッブズに読み取ることが可能だと思われま。個々人が自分の生存を保障するために、国家を作ったはずですが、生活保護の問題など、国家が誰の生命を保障するかを決めているという問題もあり、今日でもホッブズを読み直す価値があるのではないかと考えます。



秋学期からは、ロックの『統治二論』を読んでいます。『統治二論』は主に後篇が読まれてきましたが、前篇では、フィルマーの王権神授説が聖書の記述を詳細に検討することで批判されます。フィルマーは、神がアダムに与えた支配権がイングランド王に継承された」と主張し、人類は生まれながら支配と服従の関係に置かれるとしました。それに対して、ロックは人類は自由で平等な存在として、神によって創られ、そのため自分の身体、自由、財に対する固有権が保証されなければならないとします。また、神によって創られた様々な物に対して所有権が与えられるのは、耕作や採集など、自分の手を労働によって加えるためだとされます。ロックの思想は、基本的人権の尊重など、日本国憲法にも継承されていますが、それが宗教的な起源を持つということは、日本における西洋思想の受容についてより深く理解する機会を与えてくれると考えます。(以上、2021 年度クラス便りより)

冬学期終わりからは、ルソーの『社会契約論』に入ります。ルソーの『社会契約論』を読むことで、ポピュリズムや独裁、コロナ禍での規制などにより揺らいでいる民主主義という体制を、起源に遡って検討できればと思っています。キーワードである「一般意志」を現代において再解釈した東浩紀『一般意志 2.0』なども紹介し、議論を深めたいと思います。

「漢文入門」「漢文講読Ⅰ」「漢文講読Ⅱ」「東洋古典を読む」無料ガイダンス

3/23 (水) 20:10～21:30

※この日は下記4種の漢文クラスガイダンス枠となります。当日参加者の希望により、説明順序や内容・時間配分を調整させていただきます。

zoom
オンラインのみ

『漢文入門』

4/19より開講

火曜 18:40～20:00

講師：斎藤 賢

本講座は漢文の基礎文法を習得し、自力で返り点のついた文章を読めるようになることを目的とした授業です。授業の計画としては、まず返り点など訓読の基礎や漢文の基本的構造を解説し、続いて漢文の重要な句法を解説し、その後は返り点のついた文章に挑戦していくことになります。テキストとしては小川環樹・西田太郎『漢文入門』などを中心に、受講生の関心に沿いながら適宜選んでいきます。



漢文と言えば、教科書にのっているような教訓めいた諺や、漢字ばかりの堅苦しいイメージを抱かれる方もおられるかもしれません。しかし、実際には人の胸を打つ物語や、好奇心をそられる逸話に満ちており、漢文を学び、理解を深めることで世界は大きく広がるでしょう。

zoom
オンラインのみ

『漢文講読Ⅰ』

4/19より開講

火曜 20:10～21:30

講師：斎藤 賢

2021年度の秋学期より、漢文に慣れ親しんでもらうことを目的として、志怪小説など怪しい話を中心として、基本的に比較的短い話を選んで読み進めています。

これまででは、六朝時代の志怪である『搜神記』『搜神後記』『拾遺記』から数篇を選んで読み終え、その後は受講生の希望にそって『世説新語』『呂氏春秋』『古神話選釋』などから短編の説話を選び、読了しました。志怪小説には、夜になると頭だけ分離して飛んでいく召使や、狐に誑かされた男、病気の母を看病する三兄弟のもとに突如として出現する生首など、怪しく不思議で、時に恐ろしい話が満載です。現代の怪奇小説にも通じるようなこれらの話は今も読者の興味をそそるものでしょう。

秋学期から冬学期にかけては、人と幽霊の恋物語である「金鳳釵記」を読んでいます。明・瞿佑の『剪灯新話』にみえるこの話は、幼い頃に金鳳釵（金の鳳凰をあしらった簪）を証に結婚の契りを交わした二人の男女が、親の事情で離れ離れとなってしまう、そのうち女性は病気で夭折するけれども、彼女の妹と名乗る人物が現れて、男性と恋に落ち…というあらすじで、男女の情を悲しくかつ美しく描き出しており、単なる怪奇小説とは一味違ったものとなっています。

また、中国の志怪小説は日本のお化けや妖怪にも影響を与えているようで、受講生のかた

からは読んだテキストと似た話が日本にもあるとの声をよくいただいています。志怪小説を読むかたわら、日本の物語などと比較することも興味深く、また意義のあることだと思います。

zoom
オンラインのみ

『漢文講読Ⅱ』

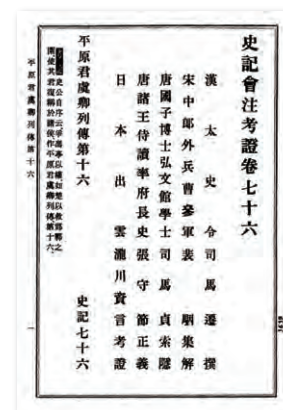
4/20より開講

水曜 20:10～21:30

講師：斎藤 賢

テキスト：『史記會注考證』ほか

2021年度の春学期より、『史記會注考證』をテキストに読み進めています。司馬遷の手になる『史記』の名は聞いたことがあるかたも多いかと思いますが、瀧川亀太郎博士の手になる『史記會注考證』にはあまりなじみがないかもしれません。本書は『史記』本文に注釈のついた形式となっており、『史記』の三家注と称される南朝宋・裴駰の「集解」、唐・司馬貞の「索隱」、及び唐・張守節の「正義」に加えて、瀧川博士が中日の学者の説や自身の見解をまとめた「考證」が附されています。



現在は戦国時代の人物の列伝を中心に授業を進めており、春学期に呂不韋列伝、秋学期に魏公子列伝、そして冬学期には平原君虞卿列伝をテキストに採用しました。一介の商人から秦国の大臣にまで登りつめたにもかかわらず秦王にその権勢を疎まれ、最後には毒酒を飲んで自殺した呂不韋。義侠心に富み、援軍を率いて秦に攻囲された趙を救い、また諸侯の兵を率いて当時圧倒的勢力を誇っていた秦軍を函谷関以西に封殺するなど、赫赫たる功績をあげるも、讒言のために憂いに沈んで病死した信陵君。『史記』の記す人々の多くはこのように優れた才能を持ちながらも悲愴な運命を辿っています。しかし、だからこそ彼らの鮮烈な生きざまは読者の心に深い印象を残すのだと、私は感じています。また、司馬遷の妙筆が描く人物たちは、2000年以上たった今もなお色褪せず、読者の眼前に彷彿として現れるかのようです。さらに、『史記』理解の助けとして、関連する文献や考古学的遺物などもご紹介しつつ、古代中国がイメージできるような授業を目指します。

なお、本授業は丁寧な解説を心がけていますので、初心者のかたでも不安に思われる必要はありません。受講生からは授業を受けるなかでだんだんと読めるようになってきた、という嬉しい声もいただいています。

入門、講読Ⅰ、
講読Ⅱ、各
オンライン

10名

空きあり。
(2022年2月時点)
お早めに!

オンライン

10名 お早めに！

NEW!

zoom
オンラインのみ

『東洋古典を読む』

4/20より開講

水曜 18:40~20:00

講師：斎藤 賢

2021年度春学期より担当している本授業は、長らく読み継がれてきた中国の古典を読むことを趣旨としています。春・秋学期は清・盧弼の『三国志集解』や『三国演義』をテキストに選び、『三国志集解』では曹操の伝記である武帝紀を、『三国演義』では桃園結義や官渡の戦いの場面を読み進めました。『三国志』は古来簡潔な名文として知られており、『三国演義』は日本でも人気を博した古典小説といえ、単に漢文を読む力をつける以上の価値があったと思います。また、特に『三国演義』は白話の要素もあるため、テキストに選ぶ際はややためらいもありましたが、丁寧に読んでいくうちに、熱心に参加してくれていた受講生からもだんだんと文法や表現方法に慣れてきたとの言葉をもらい、嬉しく思う場面もありました。

今後も、東洋の古典を読むという方針に基づき、以下のいくつかをテキストの候補とし、受講生の関心にそってテキストを決定し、授業を進めていきます。

(経書関連)

- ・『論語集釋』
- ・『孟子注疏』
- ・『春秋左傳正義』 etc.

(小説)

- ・『三國演義』(及び正史『三國志』)
- ・『封神演義』 etc.



『論語集釋』『孟子注疏』『春秋左傳正義』はそれぞれ古典として名高い『論語』『孟子』『春秋左傳』の注釈書であり、これらの原文をより深く理解するために有用な書となっています。特に『論語』などは一つ一つの言葉が短いこともあって、理解の難しいところもありますが、歴代の注釈を参考にすることによって、自分なりの理解が得られるようになることに大きな意義があると思われます。

一方、『三国演義』や『封神演義』については、話自体が面白い、ということのみならず、白話の要素もあることで、漢文のみならず、現代中国語の学習にも役立つところがあるでしょう。授業の際は訓読してもらっても、現代中国語でよんでもらっても構いません。

「現代世界史」無料ガイダンス

3/25 (金) 18:40~20:00

オンライン

10名 (空きあり)
2022年2月時点
お早めに！zoom
オンラインのみ

『現代世界史』

4/16より開講

土曜 20:10~21:30 (予定) 講師：吉川弘晃

この授業では、19世紀後半以降の「現代世界史」を最近の歴史研究(主に読みやすい新書)を通じて学んでいきます。この20年間、特にIT技術の飛躍的な発展が政治・経済・文化、その他多くの局面で「世界の一体化」を推し進め、その起源は16世紀(大航海時代)や14世紀(モンゴル世界帝国)と諸説あります。しかし、ヨーロッパで確立した諸制度(資本主義・近代国家・衛生・大学・鉄道…)がその他の各地域へ拡大していくという意味で、「世界の一体化」が決定的な潮流となるのは19世紀半ば以降です。とはいえ、そうした過程でアジアやアフリカの各地域から、「西洋化」に対する自律的な反応(受容・反発・変容)が見られたのも(特に20世紀以降は)忘れてはなりません。世界が激しい流れのなかで一体化していく歴史、すなわち「現代世界史」について、講師と受講生と一緒にテーマを決めて学んでいきます。

春学期は、主に「現代世界史」を学ぶために必要な概念や理論(資本主義・ナショナリズム・歴史哲学・近代化・文化理論など)を、秋・冬学期はより具体的かつ実践的な歴史(日本及びそれ以外の地域にまたがる近現代史)を扱います。参考までに2021年度に用いた教科書を挙げておきます。

春学期：柄谷行人『世界共和国へ』岩波書店、2006年

秋学期：三谷太郎『日本の近代とは何であったか』岩波書店、2017年

冬学期：中野耕太郎『20世紀アメリカの夢』岩波書店、2019年

以上のように選んだテキストをもとに、①「現代世界史」を巨視的に眺めるための道具を用意した上で、②「現代世界史」をめぐる問題について私たちの住む日本という地域から考えるとともに、③他の地域の事例を比較・検討することで、日本の事例を相対化していくこと、を目指しています。

この授業は開講したばかりなので、試行錯誤を続けておりますが、上記に関わるもので何か読みたい本や扱ってほしいテーマがあれば、お気軽に教室までお問い合わせください。どうぞよろしくお願いたします。



「日本文化論を読む」無料ガイダンス

3/25 (金) 21:00~22:20

オンライン

10名

(空きあり)

2022年2月時点

お早めに!

zoom
オンラインのみ

『日本文化論を読む』

4/15より開講

金曜 21:00~22:20 講師: 中島 啓勝

以前から断続的に開講されてきたこの授業ですが、受講者と講師で相談しながら課題図書を決定し、毎週少しずつ読み進めていきます。テキストは基本的に「日本文化論」「日本社会論」もしくは「日本人論」と呼ばれるような評論・エッセイを中心に選んでいます。そこはあまり厳密には考えていません。ある程度「日本」に関するテキストであれば何でも構わない、くらいのスタンスで続けてきました。現在は社会人の方一名と一緒にオンラインでの授業を行っております。

ちなみに、この受講者の方は元々とりたてて「日本文化論」というジャンルに関心があつたわけではなく、とにかく何らかの人文的教養に触れて勉強し直したくて受講を希望されたとのことでした。そのため、最初は「本当にこの授業で大丈夫だろうか、楽しんでもらえるのだろうか」と心配していたのですが、実際に授業を重ねていくうちに杞憂だとわかりました。社会経験が豊かな方ほど「日本」にまつわる議論に触れるとこれまでの生活で心当たりがある所も多いようで、毎回話題は尽きません。テキストの内容についての解説はもちろん、お互いの日常で起こる様々な出来事も話し合うための素材となっています。

こう書くと、まるでこの授業は世間話ばかりに興じる不真面目な集まりなのかと思われるかも知れませんが、それは違います。世間話ばかりしてはいない、という意味ではありません。不真面目ではない、という意味で違うと言っているのです。この「日本文化論を読む」では、真剣に世間話をするのを授業の大きな核だと考えています。そしてそれは、「日本文化論を読む」という行為と深い所で結びついているのです。

現在の受講者の方と授業を開始してから取り上げたテキストは、三つあります。最初は、山本七平の『空気の研究』。次に、『NHK「100分de名著」ブックス 岡倉天心 茶の本』を使いながら、タイトルにもある岡倉天心の『茶の本』の内容を。そして、岡倉とも縁の深い哲学者、九鬼周造の『「いき」の構造』と、どれも古典と呼ぶにふさわしいものばかりを読んできました。しかし、こうした著作を紐解けば紐解くほど、痛感することがあります。それは、優れた「日本文化論」とは、「日本文化とはこういうものだ」といった独断や「日本文化は素晴らしい」といった自文化礼賛、または「日本文化は世界と比べてこんなにも違う」という日本特殊論と似て非なる議論だということです。

もちろん、先ほどあげたどのテキストにも、日本文化をどう規定するの



2月現在は柳宗悦を読んでいます。

か、他の文化と比べてどこが優れていてどのように異なるかについての記述は出てきます。しかし、それらは全て、ただ日本のことを知るためだけではなく、日本を含めた世界をよりよく知るためであり、さらには日本および世界を構成する一点である自分自身をよく知るためのプロセスなのです。「日本文化論」とは、世界と自己、この二つをより具体的でより鮮明に捉えるための思考の枠組みを提供してくれる、格好の叩き台なのです。

そういうわけで、この授業で取り上げてきたようなテキストを熟読すれば、私たちは半ば必然的に、自身の日常についても反省せざるを得なくなります。先ほど「真剣に世間話をする」と書いたのは、こうした考えが背景にあったのでした。この授業ではこれからも、テキストの逐語的読解と同じぐらい、いや、ひょっとするとそれ以上に、自分たちの生活からにじみ出るリアリティを見つめ直すことを大切にしていこうと思っています。(2021年度クラス便りより)

●山の学校 2022年度 春学期のスケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
4月					15 ●(1)	16 ○(1)	17
	18 ▽(1) <英>	19 ●(1)	20	21 ●(1)	22 ○(1)	23	24
5月	25 ▲(1) <何>	26 ○(1)	27	28 ○(1)	29 (休)	30 (休)	1 (休)
	2 (休)	3 (休)	4 (休)	5 (休)	6 (休)	7 (休)	8 (休)
	9 ▽(2) <英>	10 ●(2)	11	12 ●(2)	13 ●(2)	14 ○(2)	15
6月	16 ▲(2)	17 ○(2)	18	19 ○(2)	20 ○(2)	21	22
	23 ▽(3) <何>	24 ●(3)	25	26 ●(3)	27 ●(3)	28 ○(3)	29
	30 ▲(3)	31 ○(3)	1	2 ○(3)	3 ○(3)	4	5
	6 ▽(4) <英>	7 ●(4)	8	9 ●(4)	10 ●(4)	11 ○(4)	12
7月	13 ▲(4)	14 ○(4)	15	16 ○(4)	17 ○(4)	18	19
	20 ▽(5) <何>	21 ●(5)	22	23 ●(5)	24 ●(5)	25 ○(5)	26
	27 ▲(5)	28 ○(5)	29	30 ○(5)	1 ○(5)	2	3
7月	4 ▽(6) <英>	5 ●(6)	6	7 ●(6)	8 ●(6)	9 ○(6)	10
	11 ▲(6) <何>	12 ○(6)	13	14 ○(6)	15 ○(6)	16	17
	(予備日)	(予備日)	(予備日)	(予備日)	(予備日)	(予備日)	(予備日)

山の学校は3学期制で、各学期12コマの授業が基本となります。

春学期 (4月~7月中旬)、秋学期 (9月~12月初旬)、冬学期 (12月初旬~3月中旬)

●クラスお申込み方法

「申込書」(HPよりダウンロード可能)の提出(郵送・FAX)、またはEmail・ホームページ「お問い合わせ」に、受講希望科目・氏名・住所・電話番号をご記入の上、お送り下さい

●クラス定員について

クラス定員は「対面5名」「オンラインのみの場合10名」「対面・オンライン併用の場合、合計10名」を目安に、クラスの広さ、受講生の習熟度その他によってその都度適正な人数を判断します。

●入会金・授業料

入会金: 初めて山の学校にお申し込みの方に、入会金をお願いしております。(小学生: 6,000円 中学生: 8,000円 高校・一般: 10,000円)

	小学生	中学生	高校・一般
1科目目	26,000	34,000	42,000
2科目目	18,000	26,000	34,000
3科目目	10,000	18,000	26,000
4科目目	10,000	10,000	18,000

授業料: 学期ごとの授業料は次の表の通りです。複数科目受講の場合、2科目目以降の割引がございます(※2科目目以降がマンツーマンクラスの場合は適用外)。その他、詳細はHPでご確認下さい。